

月刊 脊 振

福岡県議会議員
(南区選出)

ひぐち明後援会会報誌

ひぐち明後援会事務所
〒811-1311
福岡市南区横手 4-5-1
TEL.092-573-1892
FAX.092-573-1897
ホームページ
www.higuchi-akira.com

定額給付金 ～第2次補正予算案の成立に寄せて



いまや、全国民の関心事である定額給付金ですが、第2次補正予算案も成立し、着実に実現に向けて動いています。

定額給付金は、リーマンショック以降の世界恐慌に伴う日本の景気悪化を深刻な問題として捉えた政府による景気刺激策のひとつとして、原則として国民全員に支給するものであることはご存知のとおりです。私としても、「100年に一度」といわれる金融危機に瀕している今こそ、国がこれまで特別会計の準備金として積立ててきた運用益累積の繰越利益を切り崩し、内需の拡大、景気の回復を目指すとする危機意識のあり方については非常に妥当なものだと思っています。

この積立金は現在「霞ヶ関埋蔵金」といわれ、民主党の政策等では、増税をなくともこの埋蔵金の切り崩しだけで多くの政策が実現するといわれております。しかし実際は隠し金のような性質のお金ではなく、打ち出の小槌のように際限なく大金が湧いてくるものでもありません。あくまでも特別会計の中にある積立金の一部ですから、全額使い切ってしまうと、今後、資金調達として財債を発行する際の金利変動リスクへの供えがなくなります。そのため、計画的な活用が非常に需要ですが、国民に支給することが最善の策であるか、私の考えをお話しします。

今回の世界恐慌において、同様の政策が台湾などでも行われ、国民の熱い支持が得られているようです。日本でこれほど批判の声が上がる背景には、定額給付金は貯蓄することができるといえる点で景気刺激にはあまりならないのではないかとこの根強い疑問があるからです。今回の定額給付金と似たような性質のものとして、日本でも平成11年度に景気刺激策として実施された地域振興券があげられます。15歳以下の子どもや高齢福祉年金等の受給者、所得の低い高齢者の経済的負担を軽減すべく配布された、1人2万円分の市区町村内専用の商品券でしたが、最終的な使用率は99.6%、追跡調査によって割り出された振興券によって喚起された消費の順増分は32%にあたる2,025億円で、

GDPの個人消費を0.1%程度引き上げたこの結果報告がなされています。今回の定額給付金は原則として国民全員に、利用地域を限定しない現金を支給するものなので、一概に比較はできませんが、実質GDPを0.2%押し上げ、約8千億円の追加消費がなされると想定されています。しかし私は定額給付金の大部分は貯蓄に回ったり、景気刺激に直結しない消費財に使われたりする可能性が高いと考えており、政府発表の実現性には甚だ疑問を持っています。

低所得層への生活支援が急務

では、どうすれば2兆円をフル活用できるのか。方法のひとつとして、消費税の期間限定免除等のアイデアも出されています。この案は、この不況期で買い控えがありがちな高額商品の購買意欲促進および駆け込み需要の喚起には一定の効力があるでしょう。家が欲しい人であれば、何千万の買物ですから消費税5%が免除されれば数百万の税金が免除されることになり、「今のうちに買いたい」と思う人が増えることは十分に期待できます。単純に計算しても、一人がこの策をきっかけに3千万の家を建てることは、2500人の人が定額給付金全額を追加消費してくれることに相当します。高額商品の例を出しましたが、消費税は全員に平等にかけられている税ですから、もちろん、金銭的に余裕がある人を優先的に優遇することにもなりません。

消費拡大の部分ばかりがクローズアップされる定額給付金ですが、私はむしろ生活支援という色合いに重きを置くべき制度だと考えています。そういう意味では所得制限をして本当に生活に困っている低所得者の方々に限定して現金を給付するという考え方のほうが制度としての意義があるのではないのでしょうか。所得制限をすることで使い切れなかったお金については、たとえば、山崎拓代議員は、全額を小中学校の耐震工事に充ててはどうかとの発言をされましたが、これは非常に良いアイデアだと思います。本来はすぐに着工したいものの、財政難で延期になってしまっている小中学校も多いと聞いています。子ども達の安全のためには大変重要な工事であり、また地元の中建設会社が主力となって進めるタイプの工事ですから、地元企業の活性化にも直結します。限られた予算を最高の形で活用するために、もっともっと知恵を絞って話し合いを重ねたいと思います。一刻も早い対策の実施が急務であるとの思いの間で、政府も揺れています。その中で出された、2兆円の交付という策が日本にとって良い効果を生むよう期待したいものです。

南区トピックス

映画やテレビでも最近取り上げられることの多い感染症。南区は、インフルエンザや細菌性肺炎、感染性胃腸炎の感染者は市内でも少ない区です。しかし、百日咳、流行性目下腺炎やA群溶血性レンサ球菌咽頭炎などについては市内の平均を大きく上回る患者数が報告されています。うがい、手洗いの励行や入浴を避けることなど基本的な予防策をおこなうことが大切です。